

西教寺進徳日曜学校だより

西教寺蔵本通支坊 2002.9.15. 呉市中央7-7-13

21-2798 E-mail:chinei63@enjoy.ne.jp

今日したこと

保護者のみなさんへ

お彼岸「ともに会う世界」

今日は何の日？

仏教こども新聞

「心の中のたからもの」

「はとぼっぼ」ぱびぷべぼバージョン
坂田としお風「桃太郎さん」

ご存知でしょうか？『阿弥陀経』というお経さまには「念仏を喜ぶものは俱（とも）に一つ処で会う」と書いてあります。お墓に「俱会一処」とあるあの言葉です。お浄土（お彼岸）とは「皆が会うことのできる世界だ」というのです。

話は変わるのですが、僧侶といえば、「一番人の気持ちがわかる職業」というイメージですが（笑・ちがいますか？）、先日ご案内したカウンセリング講習会を受けてみて思ったのですが、私、如何に人の話を聞いていなかったかが分かりました。もっと言えば、話の内容も理解しようとしていませんでしたが、それよりも、そのことを通して、その話が出てくる底にある「その人の気持ち」が理解できていなかったということに気づかされました。私、「つれあい」と「子供たち」のことが脳裏をよぎりました（笑）。同じ家族でも顔を毎日突き合せていても、本当の意味で、心の深いところで「会っている」だろうか？あらためて考えさせられた気がします。

家庭崩壊にならない第一歩として、お彼岸は、「知っていそうで分かっていない家族の気持ちを知る」「聞き役」になるというのはいかがでしょうか？

夏休み子ども大会の写真

ごめんなさい。焼き増しは次回10/5にお渡しいたします。

全国児童作品展作品募集

ふるってご参加下さい。今年の〆切は10月20日です。



◎◎自分の目・他人の目一汝を愛する友を旋うことなかれ一 ◎◎ （真田忠美『こころの扉を開く - 臨床心理学覚え書き - より』）

1. 現状を肯定する

真の改革は、現状を肯定することからしか始まらない。

現状を否定すると、「破壊のための破壊」はできても「建設的な破壊」は難しい。これは駄目な、問題いっぱい、あるいは間違いだらけの現状のうえに、「これでいゝのだ」とあぐらをかくということではない。そういった現状をしっかりと見つめ確認して、「現状はこうなのだ」と理解し納得する、ということである。

もう少し丁寧に言うと、まず、「現実や現状を素直に在りのまゝに、これが今の現実であり事実なのだ」とはっきりと認識すること。そして、「現実がこうである原因や理由は、一体何なのだろうか」ということをよく考えて、納得のいく結論を模索すること。そのためには、書物や他者の意見を知り、自分自身の考えや感じを表現して照らしあわせ、存分に対話を交わすことが不可欠である。

「自分自身の考えや感じというものは、表現しないことには深まらない」ということもよく知っておく必要がある。

それらの作業ができて初めて、「より良い状態に変革していくためには、何をどうすればよいのか」ということが考えられるのである。そのときには、「建設のための破壊」も可能になる。理想や目的や原因が、実証的に明確になっているからである。

保守も革新も共に、より良い世界を願っているはずである。過去にこだわっても、未来を夢見るだけでも、現実的な改善は成され得ない。「右翼と左翼の真ん中は中翼（なかよく・仲良く）だ」と教えてもらった。（つづく）

この次は、**10月5日（土）10時～**です。

その次は10月20日（土）です。